

区分：工法
 従来技術：造園廃材の処分及び堆肥製品の購入

評価段階	評価項目	評価内容	判定	確認内容・方法	適用範囲	引用文献	判断基準	
技術の成立性の確認	1.ニーズとの適合		A	環境、リサイクル			Aランク：ニーズに適合する。 Cランク：ニーズに適合しない。	
	2.技術の成立性	(1)機能性	理論の成立性	A	本技術は有用微生物により悪臭を全く出さずに有機物(草木)を堆肥化する技術である。特徴としては、全行程を通して悪臭の発生がなく(ハエ等の害虫を発生させない為、地域条件に関わらず処理が可能な技術である。	新技術情報 パンフレット		Aランク：技術の成立性を確認できる 室内試験、実験、試作等のデータがある。 Cランク：技術の成立性を確認できる データが不足している。
		(2)確実性	確実性・精度	A	製品図面、ヒアリングにより確認	実証プラントにおいて確認	新技術情報 技術資料	
		(3)強度、性能	性能	A	ヒアリングにより確認	3～4ヶ月の短期間で良質の堆肥を生産することが認められる。	技術資料、新技術情報	
		(4)稼働安定性	製造能力	A	ヒアリングにより確認	年間発生量3000m3の造園廃材を処理できる能力が認められる。	技術資料、新技術情報	
			連続運転時間	A	ヒアリングにより確認	実証プラント運転において問題なしと認められる。		
		(5)構造安定性	構造上の安定性	A	プラント設備	実証プラント運転においても問題は認められなかった。	技術資料、新技術情報	
		(6)物性	製品コンポスの物理的性状	A	保水・透水試験	市販パーク堆肥と同等である。	技術資料	
			製品コンポスの化学的性状	A	成分分析試験、発芽・生育試験	成分分析の結果問題はなく、発芽・生育試験の結果、市販パークより効果大。	技術資料	
	(7)耐久性	劣化、変質	-	評価項目に該当しない				
(8)危険性	環境汚染等法規制	A	廃掃法に基づき確認	日処理量5ト未満であるので一般廃棄物処理施設の必要としない。	技術資料、新技術情報	Aランク：危険性がないと判断できる。 Cランク：危険性がないと判断できない。		
所見：所要の評価項目を満足しており、技術が成立していると判断する。								
実地条件下での適用性の確認	1.品質と出来形に与える影響		有	箱型発酵槽により、3～4ヶ月の短縮間で堆肥を生産するため、適用性の確認を要す。			有：影響がある。または適用性確認を要す。 無：影響が無い。または適用性確認不要。	
	2.実地条件下での適用性	(1)自然条件	気温	C		大阪市での実績1件であり、適用性の確認を必要とする。	新技術情報	Aランク：適用性を確認できる フィールドデータがある。 Cランク：適用性を確認できる フィールドデータがない。
		(2)現場条件	近接、スペース、調達等拘束条件	C	製品図面、ヒアリングにより確認	適用性の確認を必要とする。		
		(3)品質	規格値との整合等	C	日本パーク堆肥協会品質基準との堆肥	適用性の確認を必要とする。		
			発芽・生育試験	C		適用性の確認を必要とする。		
	(4)出来形	規格値との整合等	-	評価項目に該当しない				
	3.活用の効果	(1)経済性	材料コスト	-	比較のデータがない			Aランク：従来技術と比較して優れている。 Bランク：従来技術と同程度である。 Cランク：従来技術と比較して劣る。 -：比較のデータがない。
			施工・設備・運用コスト	-	比較のデータがない			
			維持管理コスト	-	比較のデータがない			
			トータルコスト	-	比較のデータがない			
		(2)工程	工期短縮	A	ヒアリングにより確認	従来の野積による堆肥化に比べ、約1/3の期間に短縮	技術資料	
			工程の簡略化	-	比較するデータがない			
		(3)品質・出来形	品質の向上	-	比較のデータがない			
			出来形の向上	-	比較のデータがない			
			耐久性の向上	-	比較のデータがない			
管理頻度・項目の減少			B	ヒアリングにより確認		技術資料		
(4)安全性		労働災害の可能性	A	ヒアリングにより確認	運転マニュアル、安全マニュアルが整備されており、取り扱いも容易である	技術資料		
	作業環境	A	ヒアリングにより確認	発酵棟により好気性発酵が促進され害虫、悪臭の発生抑制。	新技術情報			
	第三者災害の可能性	-	比較のデータがない					
(5)施工性	施工の合理化	B	ヒアリングにより確認		技術資料			
	熟練工の依存度	B	ヒアリングにより確認		技術資料			
(6)環境	大気・土壌汚染、騒音、振動	-	比較のデータがない					
	交通等規制の範囲、期間	-	評価項目に該当しない					
	自然・生態・景観の調和	A	ヒアリングにより確認	有機資源として土へ還元することが可能。	パンフレット			
	リサイクル、廃棄物発生抑制	A	ヒアリングにより確認	造園廃材の有効利用	パンフレット			
所見：実地条件下での確認を必要とする。								
一般工事での活用の適否の確認	1.施工管理法(施工基準)整備の必要性の有無		有	ヒアリングにより確認	施工管理の整備が必要		有：整備の必要がある。 無：整備の必要がない。	
	2.標準歩掛り整備の必要性の有無		有	ヒアリングにより確認	標準歩掛りの整備が必要			
所見：								
活用にあたっての留意事項	・試験フィールド事業の結果を踏まえ今後の使用条件を定める必要がある。					評価された事業種別	試験フィールドに活用する技術 技術活用パイロットに活用する技術 一般工事に活用する技術	
総合評価	都市レベルでのリサイクルシステムに対応していることからニーズに適しており、普及を図る必要のある技術である。						有用性が期待できる技術である	